

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 9 日

江別市立中央中学校

1 本年度の重点目標

「全ての生徒に安心と笑顔を 自律する生徒」の育成

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の適切さ
経営方針の重点	年度の重点 「全ての生徒に安心と笑顔を 自律する生徒」の育成	B	さまざまな場面で生徒の「自律」を育む学びや行動を促すことができました。次年度も経営方針の重点の実現に向け、全教職員が目指す生徒の姿を共有しながら、その実現に向け取り組んでいきます。	A	B
(1) 教育課程・学習指導	(1) ①確かな学力の育成ーア 子どもに委ねる授業を組み込んだ単元指導計画や自分で選び、決めて、調整する個別最適な学びの場面の設定など、子どもが主体となる授業構築に取り組み、成果をあげている。 【管内：重点1取組1】	B	子どもの「学びに向かう意欲」「考える力」「自分の考えを表現する力」を育てるため、引き続き授業改善を進めていきます。特に、授業においては、単元全体を見通した計画を進め、子ども主体の授業の構築に取り組んでいきます。	A	A
	(1) ①確かな学力の育成ーイ 対話と一人一台端末を活用した生徒が主体となる授業づくりに取り組み、資質・能力の育成に成果をあげている。【管内：重点1取組3】	B	「対話を重視した授業」に加え、「ICT 機器の活用」も着実に進んでいます。ICT 機器の活用が、生徒の考えの交流や変容を促し、資質・能力の向上につながるよう、これからも活用方法を工夫していきます。	A	B

	(1) ①確かな学力の育成ーウ 読解力に力点を置いた言語活動の実践に取り組み、資質・能力の育成に成果をあげている。	B	必要な情報を取り出し、理解し、考えをまとめたり、解釈したりする力を身に付けさせるために、読解力の育成や言語活動の充実が大切です。国語科中心に読解力の育成を図るとともに、各教科においても、対話を重視した授業づくりにより、言語活動の充実を進めていきます。	A	A
(1) 教育課程・学習指導	(1) ①確かな学力の育成ーエ 授業と連動した家庭学習の課題（宿題）提示に取り組み、成果をあげている。	C	家庭学習の習慣化と計画的に学習を進める力の育成が、課題だと考えます。校内研究と教科部会を中心に「授業や授業の振り返りと連動した家庭学習の提示」の取組を進めるとともに、生徒に「自己管理する力」が身に付くように支援を継続していきます。	A	B
	(1) ①確かな学力の育成ーオ 身に付けた資質・能力を生かして、発信する総合的な学習の時間の授業づくりに取り組み、成果を上げている。	B	総合的な学習の時間における探求活動を中心に、調査事項のまとめと発信に取り組んでいます。これからも、総合的な学習の時間はもちろん、各教科において、工夫した取組を進め、発信力を向上させたいと考えます。	A	A
	(1) ①確かな学力の育成ーカ 3層（伸びしろ層・中間層・定着層）の子どもの学習状況を見取り、思考・習熟の両面で、一人一人に応じた適切な指導に取り組み、成果をあげている。【管内重点1:取組2】	C	各種テストや検査の分析や授業における生徒の見取りを充実させ、適切な指導につなげていきたいと考えます。特に、数学においては、習熟度別少人数指導とT・T指導を効果的に活用するなど、各教科で指導方法の工夫に努め、個に応じた指導を進めていきたいと考えます。	A	B
	(1) ②豊かな心の涵養 考え、議論する道徳科の授業実践、成就感や達成感を高める学級活動や学校行事、自主的・実践的な生徒会活動や部活動、ふるさと教育やボランティア活動、読書活動を通して、豊かな心の育成に成果をあげている。	B	道徳の授業は、教科書を使った指導を中心に、必要に応じて、「情報モラル教育」や「人権教育」、「命を守る教育」などの生徒が抱える問題に合わせた内容の指導を行っていきます。また、生徒会によるボランティア活動も活発に行われており、豊かな心の涵養につながっています。	A	A

	<p>(1) ③健やかな体の育成 保健体育の学習や学校行事、部活動等を通して、運動の楽しさを体感し、体力の向上に努め、健やかな体の育成に成果をあげている。</p>	A	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技については、男女ともに非常に良好な結果でした。また、部活動への取組も大変活発です。一方、運動や保健体育の学習に消極的な生徒も少なくないことから、引き続き体力向上の取組を進めていきます。</p>	A	A
(2) 生徒指導	<p>(2) ①教育活動全体を通じた自己指導能力の育成 望ましい人間関係の構築や基本的な生活習慣、規範意識の醸成を図る指導（教育相談、QU、いじめアンケート、情報モラル指導等）の充実、キャリア教育や人権教育により、生徒の自己指導能力の育成を図り、成果をあげている。</p>	B	<p>自ら考え、判断し、行動に移す自己指導能力の育成のために、「自己存在感を高める」「自己決定の場を与える」「共感的な人間関係を育てる」ことに取り組んでいます。今後も、生徒の規範意識を醸成しながら、継続した取組を進め、主体的な生徒を育てていきます。</p>	A	A
	<p>(2) ②生徒会主体のよりよい学校生活づくり 生徒会活動や自己有用感を味わう学級活動、学校行事等を通じて、生徒が主体的に自他の学校生活をよりよいものにしようとする行動を推進し、成果をあげている。</p>	B	<p>生徒会活動において、生徒の意見をもとに、担当教諭の支援を受けながら、生徒が主体となった取組が行われました。今後も、生徒の声に耳を傾け、生徒主体で活発な生徒会活動を目指していきます。</p>	A	A
(3) 教職員の 資質能力の 向上	<p>(3) ①校内研究の充実 ③教科研究の推進 研修部会、研究推進委員会、教科部会が計画的・効果的に実施され、日常的な授業改革へとつながり、成果をあげている。</p>	B	<p>今年度、「他者と協働しながら、自ら学び続ける生徒の育成」を研究主題として、校内研修を進めてきました。これからも、生徒の実態を的確に捉え、学校全体での研修活動を進めていきたいと考えます。また、教科部会での研修を充実させながら、授業改善を支えていきたいと考えます。</p>	A	A
	<p>(3) ②今日的な課題に関する校内研修の推進 石教研・江教研活動をはじめ、自ら主体的に自己研鑽に励み、教育の動向や新たなニーズに対応する研修に努め、成果をあげている。</p>	B	<p>ICT 機器の活用など、今必要とされている課題について、校内研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図り、生徒への指導につなげることができました。今後も、より主体的な自己研鑽を促していきたいと考えます。</p>	A	A

(4) 特別 支援 教育 ・ 生徒 理解	(4) ①個別の教育支援計画・指導計画に基づく適切な支援・指導 ④特別支援教育の知見を生かした指導力の向上 特別支援委員会の開催や、コーディネーターと学年部・担任と連携しながら、一人ひとりの生徒の実態に応じた支援の充実に努め、成果をあげている。	B	通常学級における特別な支援を必要とする生徒が増加しており、担任、学年部、コーディネーター、関係機関と連携しながら、個に応じた指導の充実に努めているところです。また、通級指導教室を利用し、今まで以上に生徒の困り感に応じた対応をとることができています。今後も、全教職員で生徒の様子を共有し、それぞれの立場で支援を行っていきます。	A	B
	(4) ②小学校との連携と継続した取組 接続する小学校との連携等により、支援の必要な生徒や家庭環境に課題のある生徒について情報共有に努め、指導や支援に成果をあげている。	B	接続する小学校とは入学前に綿密な引継ぎを行っています。また、入学後も必要な情報交換は、随時行っています。今後も、引き続き9年間を通じた一貫した指導に努めていきます。	A	A
	(4) ③多様な学びの場を含めた学習機会の確保と学習内容の充実 SSW、SC、教育支援センター（ねくすと）との連携や登校支援室、オンライン授業等により、個々の状況に応じた学びの場の提供や支援が図られ、成果をあげている。	A	校内の登校支援教室の開室を週4回とし、学びの場の確保に努めることができました。また、必要に応じて教育支援センター（ねくすと）とも連携しています。不登校生徒へのオンライン学習も継続して実施しており、今後も、個に応じた学びの場の保障と学習の充実に努めていきます。	A	B
(5) 働き 方 改革	(5) ①役割の自覚と組織的な業務遂行 学校経営への参画意識を持ち、自らの企画・立案・提案が承認されたり、他の業務内容にも目を配り、声をかけ合いながら高め合うなど、支持的風土の中で業務を遂行できる職場環境が図られ、成果をあげている。【管内重点2:取組1】	B	初任段階層、中堅層、ベテラン層のバランスも良く、分掌部会、学年部会、教科部会で教職員が連携しながら業務にあたっています。今後も教職員一人一人がやりがいを持ち、生き生きと働くことのできる職場づくりに努めていきたいと考えます。	A	C

	<p>(5) ②「江別市立学校における働き方改革推進計画」に則った取組・③教職員が限られた条件の中で注力できる環境整備</p> <p>学校における働き方改革について、学校閉庁日や定時退勤日等の在校等時間の縮減の取組や部活動の在り方に関する方針の履行等のほか、工夫した取組により、成果をあげている。</p>	B	<p>学校における働き方改革については、校務のデジタル化や学校閉庁日、定時退勤日の設定、留守番電話の設置、メール配信サービスの活用、メールによる出欠連絡等、取組を進めているところです。在校等時間が1ヵ月80時間以上を上回っている教職員、45時間以上を上回る教職員の数は徐々に減少しているところです。コアチーム会議等を活用し、業務改善に向けた具体的取組や教職員の意識改革を推進し、さらなる改善に努めます。</p>	A	B
(6) 家庭地域との連携・小中一貫教育	<p>(6) ①地域との連携・協働の推進 ②地域の教育環境・資源の活用</p> <p>学校運営協議会（コミュニティ・スクール）やPTA、地域との連携やSC、SSW、特別支援教育支援員、学習サポート教員、登校サポーター、教育業務支援員などの専門性のある職員とともに「チーム学校」としての協働体制の充実が図られ、成果をあげている。【管内重点3取組2】</p>	B	<p>PTA 活動については、朝の街頭指導、学校花壇の整備、校舎の環境整備を行うなど、成果がありました。また、生徒や家庭の抱える課題は複雑化しており、SC やSSW、関係機関と連携した相談体制の充実を図っているところであり、今後もより強固なチーム学校体制の構築を進めていきます。</p>	A	A
	<p>(6) ③保護者・地域住民の理解の促進</p> <p>日常からの電話連絡や教育相談、家庭訪問に加え、CS、学校HPやメール配信、通信、懇談会、PTA 活動等の情報発信や話し合いの場により、学校経営方針や学校の取組について、保護者・地域の理解がすすみ、成果をあげている。</p>	B	<p>学校HP やメール配信サービスの活用が定着し、情報発信や欠席連絡、アンケート集約等、双方向のやり取りも増加しています。今後も引き続き、教育活動の可視化やデジタルによる配信の拡大を図り、保護者・地域からの理解を進めていきたいと考えます。</p>	A	A
	<p>(6) ④小中一貫教育の充実</p> <p>授業体験や部活動体験、検定の合同実施などの各種事業に加え、各部会や教科部会の取組、スタンダードの実践等により、中学校区でめざす子ども像やサブ目標（重点目標）の実現に向けて、成果をあげている。</p>	B	<p>小中一貫教育の実施については、校区内の3校の主幹教諭が推進役となり、児童生徒の各種交流、教員間の授業参観や部会会議の開催等、大きな成果をあげているところです。今後も現在の取組を継続しつつ、活動の充実に努めていきます。</p>	A	A

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

- 日頃より先生方におかれましては、生徒のために様々な業務に加え、育成に関わるご指導に心より感謝申し上げます。不登校やいじめの問題、多様化する保護者のニーズ、ICTへの取組など、業務が多岐にわたり、本当に大変かと思いますが、基本的に子どもの育ちに大きな変化はないと思います。どうか一人一人に寄り添い、生徒にとって学校が心地よい居場所と思え、毎日楽しく登校できるようにお願いを申し上げます。
- いつも地域との関わりを持っていただき、本当にありがとうございます。
- いつもありがとうございます。こうした振り返りを通して、生徒のことを考えてくれていることに感謝です。
- 学習面で、「宿題があるから」が家庭での勉強へのきっかけになっているようでありがたいです。それから習慣化、自発的な取組へ期待したいところです。また、塾に通っていない生徒が60%というので、改めて質の高い授業の大切さを感じます。先生の授業スタイルなどありますが、わかりやすい授業、これからもお願いします。
- 部活動、中央中は素晴らしいと思います。ただ、大会などの結果だけが全てではないと思います。取り組む姿勢や実力が伴わない生徒に対しても前向きになれるような指導を望みます。
- 先生達の働き方は、どんどん改善していただきたいです。対人の仕事の難しさもあると思いますが、「忙しそう。休めているかな。」と思うことがあります。
- 子どもたちが将来に対し夢や希望を抱けるような日々を過ごしてほしいと願っております。
- 学校規模の関係で、学年で教科担任が統一できない教科がありますが、先生間で授業の進捗状況やテスト問題の共有など、生徒へ公平な学習指導ができる仕組みをつくっていただきたいです。部活動が盛んな当校では、学習に対しても、いかに子どもたちのモチベーションを保つかが大切だと思います。
- 年度初めに、タブレットの故障が多いと子どもから聞いていましたが、その点については改善されたのでしょうか。
- 授業内でのグループセッションや、各グループでの発表など、一人一人の役割を設けて実践するのは良いと思います。
- 接続する小中3校で、中学校の授業や部活体験だけでなく、小学校のお祭りへの協力や長期休みの学習サポートなど両方向の協力ができたのはとても良かったと思います。
- 先生たちの働き方改革については、改革途中だと思いますが、それに伴って学校と保護者・地域との連携が縮小されることがないように願います。
- 評価項目の設定については、学校教育目標や校区の方向性を踏まえた内容であり、妥当であると考えます。一方で、改善の方策については、現状の取組や成果の整理が中心となっている項目も見られ、自己評価を次の改善につなげていくという観点から、具体性を高める余地があると感じました。
- 個々の状況に応じた学びの場の提供や支援に関する項目については、体制整備や関係機関との連携が進んでいることは理解できますが、その取組が生徒一人ひとりの学びや成長にどのようにつながっているのかについても、引き続き丁寧な検証が必要であると考えます。

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない